

# 北陸研究センターが実験説明

## 県内農家反対相次ぐ

### 遺伝子組み換え稲

誰も望んでいない  
風評被害起きたら

中央農業総合研究センター北陸研究センター（上越市）が、遺伝子組み換え技術で開発した耐病性のある稲を隔離した圃場で栽培する実験説明会が二十九日、同センターで開かれた。しかし、遺伝子組み換えによる稲の安全性を疑問視する参加者から「誰が望んでいたものを作ったのか」と反対の声が次々に上がった。

この稲は、病気に強い野菜「カラシナ」の遺伝子を導入したものだ。いわゆる病気など複数の病気に抵抗性がある。同センターでは屋外での耐病性、生育特性を研究するため、今春から圃場での栽培実験を計画している。

説明会には県内の農家約百六十人が参加。同センターの研究官が「栽培するは揚げ、一番近い農家の水田と約百二十㍍離れている。コシヒカリの開花時期に重ならない

」と述べ、花粉飛散による「コンビニエンス」を防ぐため自然交雑は防止で光る」とを強調した。質疑応答では「国産から受け入れられていない遺伝子組み換え技術を使った新穀を作るのは」「風評被害が起きたら補償すべき」と答えた。

反対意見が相次ぎた遺伝子組み換え稲の栽培



新潟  
日報

117.4.30

第三種郵便物認可

# 屋外実験延期の声続出

北陸研究センターの「遺伝子組み換えイネ『風評被害』懸念」

上越市稻田一の北陸研(試験場)は、いも病な遺伝子組み換えイネの効果の高い野菜の力



北陸研究センターで開かれた遺伝子組み換えイネの栽培実験説明会

基づく実験手順や屋外実験の進め方などをていねいに説明。徹底管理するという花粉の飛散防止策について一般水田との距離を保つことによる自然

加。実験の安全性を強調した説明に対し、研究目的そのものへの疑問や風評被害を強く懸念する声などが続出した。

センター側は、法律に

フランスの抗菌性タンパク質を組み入れた遺伝子組み換えイネの屋外栽培実験を計画し、二十九日に同センター講堂で説明会を開いた。遺伝子組み換え技術に対する関心の高さを反映し、地元農家や消費者ら約百五十人が参加した。

これに対し参加者から質問や意見が相次ぎ、予定時間を一時間以上も延長してやり取り。「農家や消費者から支持されな

い自然界にない遺伝子組み換える技術研究をなぜ進らせ一般イネと開花期を合わないようとする」と、開花期に袋かけシートで覆うことなどを強調した。種子の混入防止についても防鳥網掛けや排水口の網設置、実験水田の囲いと籠などをして強調した。

北陸研究センター側は、「風評被害の懸念」「風評被害を補償するか」と迫ったのに対し、センター側は被害の懸念。「風評被害を補償するか」と迫った農家が指摘したのは風評被害の懸念。東京の消費者団体や農業団体の労組代表がからも発言が続いたが、前提としている、と説明した。

平行線のままだった。

中央農業総研  
北陸センター

## 遺伝子組み換え稻試験栽培

県に内容を

新潟日報  
5/11

いも病など複数の病害に強くなる遺伝子組み換え稻の屋外栽培実験を計画している中央農業総合研究センター北陸研究センター(上越市)は十日、県庁で県農水部長ら四に対し、試験内容やコシヒカリとの交雑防止措置などについて説明した。県側は「地元農家の理解を十分得られるよう慎重に進めてほしい」と要望した。

同センター側はコメの品種「ひとごこち」と、病害に強い野菜「カブ」の遺伝子を導入すること、耐病性のある稻が開発されたことを説

遺伝子組み換え反対

24日 東京へ

地産地消 形態